

2024年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任			
国語	現代の国語	2	1年次	齊藤裕子・佐々木千春			
選択するときの条件	1年次に全員共通履修						
使用教科書	(第一学習社) 高等学校 現代の国語		使用副教材	(第一学習社)「高等学校 言語文化 学習課題集」 (数研出版)「改訂版 プレミアムカラー 国語便覧」			
科目の目標				道徳教育のねらい			
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を育成することを目指す。				人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。			
学習活動内容		育てたい6つの力(資質・能力)					
		1	2	3	4	5	6
		主体的 学習力	基礎力	思考・ 分析力	発信・ 表現力	自己認知 ・協働力	計画 実行力
1	読解と論述			◎		○	
2	実用の文章	○	◎	○			○
3	思考力			◎		○	
4	表現力	○		○	◎		
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
評価の観点	知識・技能		思考 判断 表現			主体的に学ぶ態度	
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
評価の方法	次の3観点において、各資料をもとに総合的に評価し、5段階の評定をする。また、各観点については、到達度により総合的に評価し、A・B・Cの3段階で評価する。定期考査では「知識技能」を、授業・課題への取組および提出物により「思考・判断・表現」「主体的に学ぶ態度」を評価します。						
	A: 目標に対する到達度が70%~100%		B: 目標に対する到達度が45%~69%			C: 目標に対する到達度が0%~44%	
	教科・科目における各観点	授業での取組	課題への取組		提出物	考査	
	知識・技能	○	○			◎	
思考・判断・表現	○	○		◎			
主体的に学ぶ態度	◎		◎		○		

現代の国語 授業計画

授 業 計 画					実施状況				
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元実施時数			実施反省		
				読む	書く	話す 聞く			
前 期	4 (4)	・オリエンテーション(1) ・話すことと聞くこと(2) →以降の授業内で毎時間スピーチを実施	国語の学びの目的と学習の概要を理解することができる。 ・話すことと聞くことの関わりを理解することができる。 ・スピーチの構成を考えることができる。	授業についてのガイダンス 聴く力(天使の時間と悪魔の時間) 話す力(スピーチで自分を伝える)			1 1 1		
	5 (6)	I 文の中心をつかむ (4)	・「作者の伝えたいこと(キーワード・キーセンテンス)」を読み取ることができる。 ・自分のものの見方や考え方を振り返ることができる。	A:「生きもの」として生きる B:「本当の自分」幻想 C:ものことば	1	2	1		
	6 (1)	II 書いて伝える① (4)	筆者の考えを踏まえ、自分の考えをまとめることができる。	要約①		4			
	前期中間考査 (1)				1				
	6 (5)	III 構成を学ぶ (4)	・構成を意識して読むことができる。 ・ものの見方や考え方を広げることができる。	A:無彩色 B:「文化」としての科学	2			2	
	7 (6)	IV 文の中心をつかむ② (6)	・描写に注目して「作者の伝えたいこと」を読み取ることができる。 ・ものの見方や考え方を広げることができる。	A:羅生門 B:城の崎にて	6				
	8 (3)	V 構成を学ぶ②対比 (6)	・対比構造を理解することができる。 ・筆者の考えを理解し、自分の考えを形成する。	A:水の東西 B:「間」の感覚	2		2	2	
	9 (1)	前期期末考査 (1)				1			
	9 (5)	VI 書いて伝える② (5)	・表記・表現の基本ルールを理解することができる。 ・構成を意識して小論文を書くことができる。	書き方の基礎レッスン 小論文の構成		2 3			
	10 (8)	VII 資料を読む① (3)	資料を読み比べ、必要な情報を読み取ることができる。	A:日本の労働問題に関わる資料を読み比べる B:学校新聞の記事内容を検討する	1		1	1	
	後 期		VIII 構成を学ぶ③具体と抽象 (5)	・具体と抽象を意識して筆者の考えを読み取ることができる。 ・筆者の考えを理解し、自分の考えを形成することができる。	A:日本語は世界をこのように捉える B:フェアな競争	1	2	2	
11 (7)		IX 文の中心をつかむ③ (6)	描写や展開に注目して「作者の伝えたいこと」を読み取ることができる。	A:夢十夜	1	2			
後期中間考査 (1)				1					
		IX 文の中心をつかむ③ (6)	描写や展開に注目して「作者の伝えたいこと」を読み取ることができる。	B:鏡		3			
12 (7)		X 資料を読む② + 書いて伝える③ (6)	・必要な情報を読み取り、複数の情報を関連付けて理解したことをまとめることができる。 ・自分の考えを書いて伝えることができる。	※資料(実用的文章) ・小論文作成		3 3			
1 (7)		XI 構成を意識して読む① (8)	・文章の構成を意識して筆者の考えを読み取ることができる。 ・筆者の考えを理解し、自分の考えを形成することができる。	A:不均等な時間 B:ロビンソンの人間と自然	2		5	1	
2 (4)		後期期末考査 (1)				1			
3 (4)	VI 書いて伝える③ (6)	筆者の考えを的確に読み取り、その内容を適切に伝えることができる。	※資料(論理的文章) ※資料(実用的文章) 要約②	1 1		4			